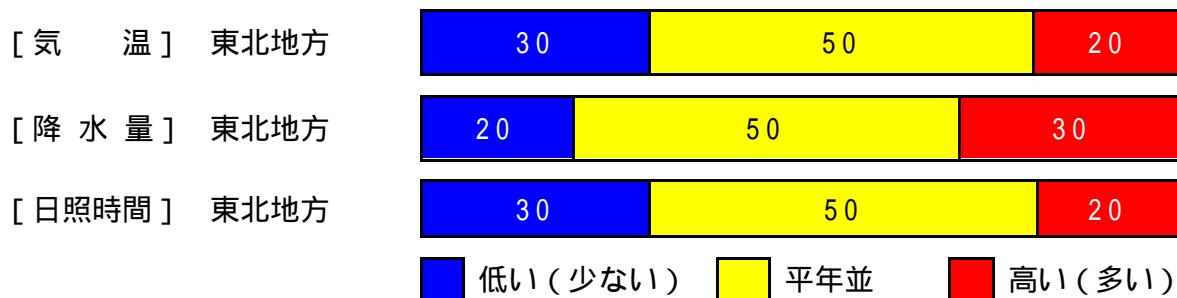


東北地方1か月予報の解説(予報期間:3月10日~4月9日)

平成13年3月9日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方では、期間の初めは低気圧の通過後に冬型の気圧配置となりますが、長続きしない見込みです。中頃以降は高気圧と低気圧が交互に通過し天気は周期的に変化するでしょう。平均気温は平年並でしょう。

向こう28日間の晴れ日数: 東北日本海側約14日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の初めは強い寒気が南下し冬型の気圧配置となり、東北日(3月10日~3月16日) 本海側では雪が降るでしょう。東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。期間の中頃は、移動性高気圧に覆われ晴れるところが多いですが、期間の終わりには、気圧の谷の影響で天気のくずれる所がある見込みです。

平均気温は低いでしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約5日

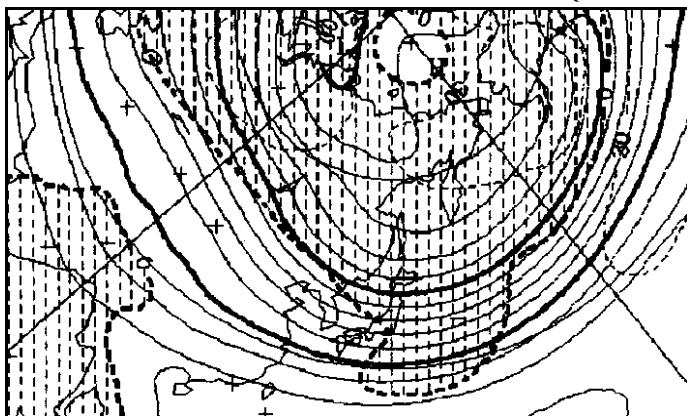
2週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化するでしょう。(3月17日~3月23日)

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約3日、東北太平洋側約4日

3~4 週目………
 (3月24日~4月6日) 低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化するでしょう。
 平均気温は平年並でしょう。
 平年の晴れ日数：東北日本海側約7日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

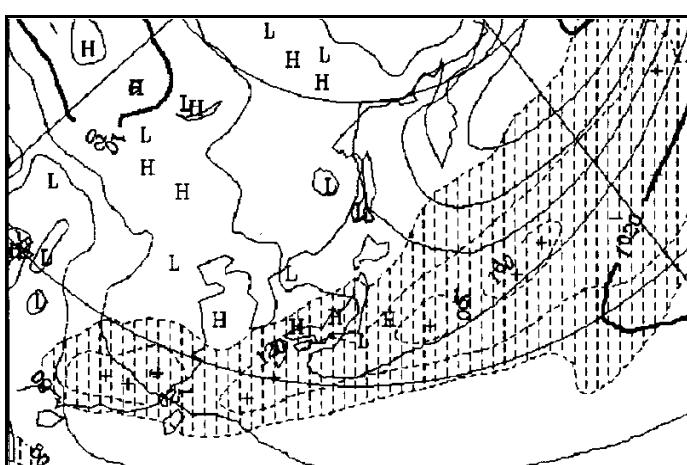


月平均の 500hPa 高度・偏差
 (等高度線: 60m 毎、偏差: 30m 毎、陰影部: 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差
 月平均で見ると、バイカル湖から日本の東海上にかけては負偏差に広く覆われる。

日本付近の偏西風は概ね東西流が基調で、天気も概ね周期的に変化する。

週別（図略）では、1週目は日本付近は負偏差に広く覆われ、寒気が入りやすい。2週目以降は東西流が卓越し天気は周期的に変化する見込み。

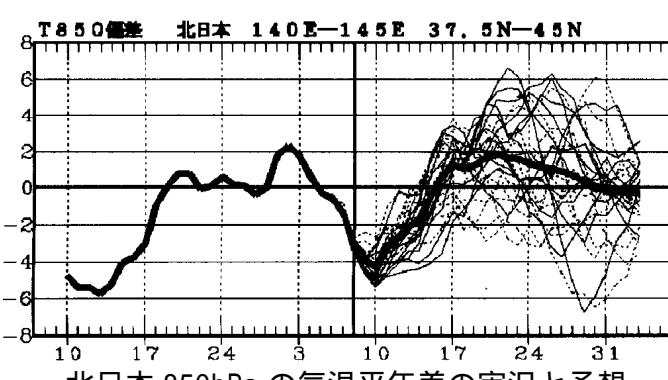


月平均の地上気圧と降水量
 (等圧線: 4hPa 毎、降水量: 40mm 毎、陰影部: 80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近の等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置はゆるんでいる。降水域は日本の南岸に沿ってのびており、まとまった降水域は東北地方にはからない。

週別（図略）では、1週目に北日本は弱い冬型の気圧配置となっているが、2週目以降は冬型の気圧配置はくずれる。まとまった降水域は日本の南岸を中心となる。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
 (縦軸: 気温平年差 () 横軸: 日付)

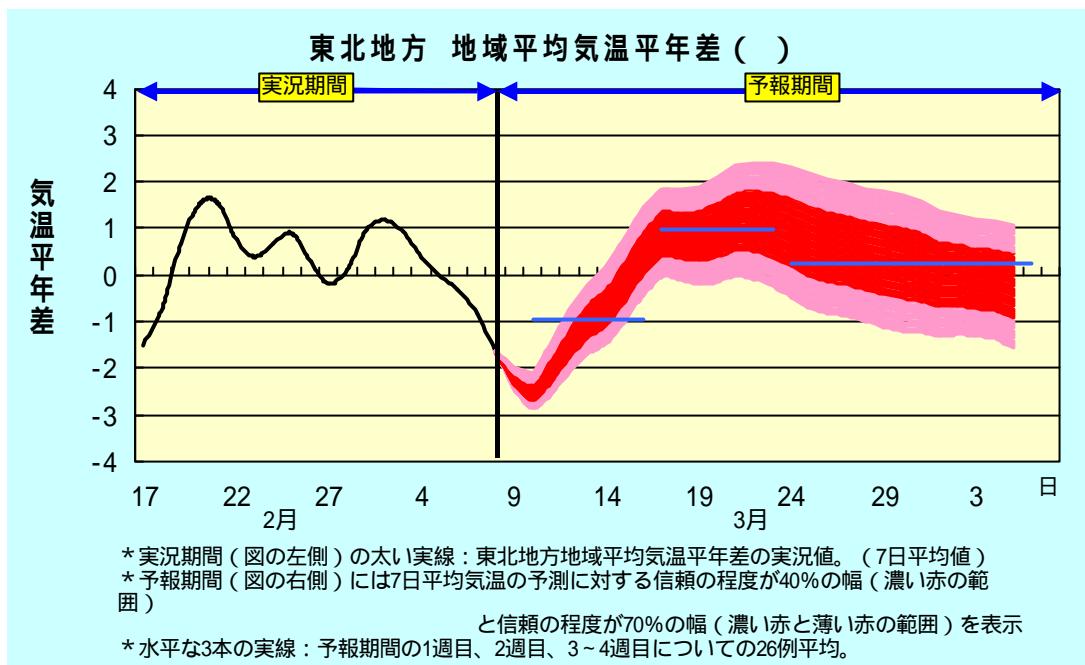
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列
 アンサンブルメンバーの平均は、1週目に下降して平年を下回るが、2週目には昇温して平年を上回る。3~4週目は概ね平年並程度で推移。

1週目まではメンバーも比較的そろっているが、2週目以降はバラツキが大きくなる。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

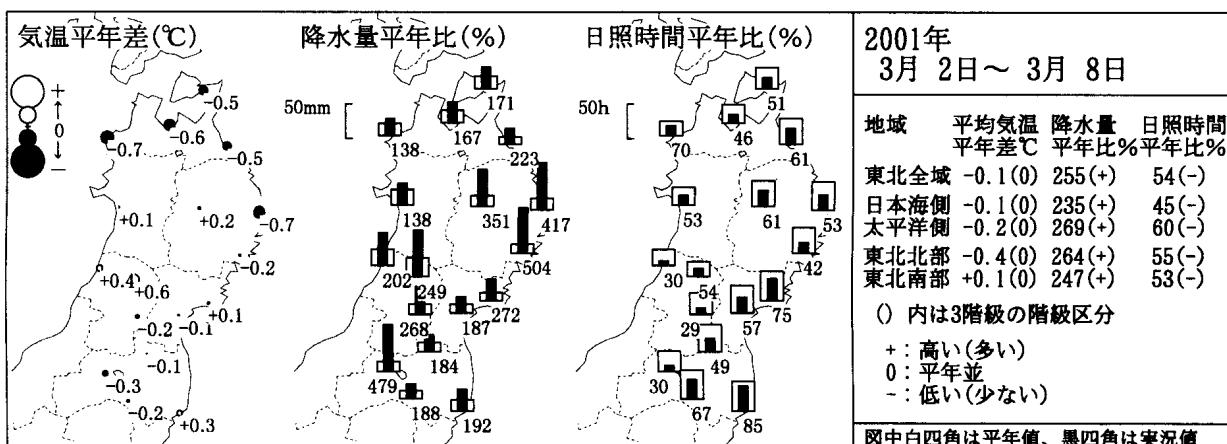
週別の気温は、1週目「低い」、2週目「高い」、3~4週目「平年並」を予測している。予報は、1週目は「低い」のままだが、2週目は上層の予想図など他の予想資料から「平年並」とする。3~4週目は予測通り「平年並」。なお、予報の信頼度は小さい。



4. 最近1週間(3月2日~3月8日)の天候の経過

短い周期で低気圧が次々と通過し、低気圧の通過後は一時強い冬型の気圧配置となった。3日は移動性高気圧に覆われ晴れたが、4日には低気圧の通過にともない東北地方の広い範囲で雨となった。また、低気圧の通過後は強い冬型の気圧配置となり、東北地方全域で雪となった。7日は再び低気圧が通過し雪となるところが多くかった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、日本海側を中心に雪となった。

平均気温は、東北地方で平年差-0.1℃と平年並だったが、寒暖の変動は大きかった。降水量は、東北地方で平年比255%と多かった。日照時間は、東北地方で平年比54%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)